

事業報告書様式

- 1 様式1
(施設概要、指定管理者概要)
- 2 様式2
(管理運営体制(事業計画書様式2)の報告、利用促進・市民協働等(事業計画書様式3)の報告、維持管理(事業計画書様式4)の報告)
- 3 様式3
(有料施設利用回数・人数・稼働率(月別)・利用料金収入実績、令和5年度公園利用状況)
- 4 様式4
(令和5年度修繕実績)
- 5 様式5
(令和5年度増減備品一覧)
- 6 様式6
(苦情要望対応報告、事件・事故・災害対応報告)
- 7 様式7
(利用者アンケート結果)
- 8 様式8
(研修実施報告)
- 9 様式9
(無料事業実施報告一覧(自主事業含む)、有料事業実施報告一覧(自主事業含む))
- 10 様式10
(業務の第三者委託実績)
- 11 様式11
(収支報告書(指定管理事業のみ))
- 12 様式12
(運営目標・実績報告)

1 施設概要

公園名	大榎杉の森ふれあい公園
所在地	神奈川県横浜市都筑区大榎町427番1
公園面積、公園種別	9,812㎡（街区公園）
主な施設	分区園(10㎡23区画、15㎡13区画、40㎡2区画)、協働農園、広場、樹林地、倉庫(トイレ併設)、照明、駐輪所、脚洗場、案内板、水呑場等
特徴	横浜みどりアップ計画における農園付公園整備事業に基づき平成の一環として整備された農園付公園
公園開園日	平成28年4月1日

公園名	若草台第二公園分区園
所在地	神奈川県横浜市青葉区若草台6-1
公園面積、公園種別	約1,565㎡（街区公園）
主な施設	分区園(30㎡ 32区画)、倉庫(トイレ付)、縁台等
特徴	市内では初期の分区園(パーク菜園)として整備された
公園開園日	昭和61年4月6日

2 指定管理者概要

指定管理者名	株式会社 田澤園
代表者名	代表取締役社長 田澤重幸
所在地	神奈川県横浜市南区六ツ川4丁目1234番地
指定管理期間	令和5年4月1日～令和9年3月31日まで(4年間)
現指定管理者管理運営開始日	大榎杉の森ふれあい公園：平成28年4月1日 若草台第二公園分区園：平成31年4月1日

(事業報告書様式2)

1 管理運営体制

(1)管理運営体制

横浜市南区にある本社に置かれた管理本部では、利用者からの意見・要望を受ける窓口業務のほか、現場作業の監督指導や、作業実施報告書の受理、予算の執行管理、職員研修の計画実施等を、各種マニュアルを活用した上で実施し、公園管理責任者を支援しました。当団体が指定管理業務を行っている他公園と連携して以下の職員を配置し管理運営を行いました。

(2)勤務体制

現地管理責任者・技術職員によって、定期巡視・清掃を適宜実施し、荒天時や緊急時などには必要に応じて臨時巡視を行いました。また夏季や繁忙時には、配置人数を増員し、状況に応じて柔軟に対応しました。また、当公園に職員は常駐しない為、利用者や市、関係機関との連絡体制を明確に構築し対応しました。

2 利用促進・市民協働等の報告

(1) 利用促進

当団体は公平・公正に利用者の声を把握して管理運営に反映し、誰もが安心して安全・快適に利用出来る環境プログラムを提供しました。

① 利用者ニーズの把握

巡視・点検の際、利用者や周辺住民の方へ積極的にコミュニケーションを取ることで、要望やニーズを直に把握出来た為、いただいた要望に出来る限り迅速に応えることが出来ました。

利用者と顔を合わせることで「顔の見える管理」を行い、信頼関係を築くことが出来ました。

② 利用者の安全及び利用者指導

熱中症の予防として、注意喚起ポスターの掲示や利用者への声掛けを積極的行いました

熱中症対策としては、温湿度計の設置や管理ヤードには経口補水液等を常備しました。

救急箱・AED・消火器を設置し、職員3名が上級救命講習を受講し緊急時の対応に備えました。

年末年始の対応として24時間緊急連絡が受けられるように体制を整えました。

社内個人情報保護研修を実施し、また個人情報保護法入門研修を受講し個人情報の取り扱いについて学びました。

③ 利用者の利便性の向上に寄与する取組

共有農具の配備、各区画に土壌改良剤としてはまっ子ユーキの配布、足場の悪い園路へのウッドチップ敷設、自動販売機の設置(大柵)、区画内通路に防草シート敷設(若草台)、利用者の年齢層に応じたSNS・掲示板の活用を行いました。

(2) 市民協働

当団体は地域に根差した企業として「良き企業市民として、より良い社会を実現するため、社会貢献活動を積極的に推進します。」というCSR方針を掲げています。地域住民と連携し地域の賑わいや交流の場として公園が活用されるよう、市民参加・市民協働に寄与する取組を行い、以下のような様々なイベントを積極的に実施し、農体験を通じた地域住民の交流を図りました。

【若草台第二公園分区園】

七タイイベント、愛護会と空きスペースへの花植え・施肥・球根等の支援、お正月用アレンジメント教室

【大柵杉の森ふれあい公園】

タケノコ掘り、七タイイベント、ボランティアによる花壇の花植え、ダイコン・サニーレタス・セロリ・チンゲンサイの収穫体験、お正月用アレンジメント教室、夏みかんの収穫体験、ウメの整枝剪定講習会、バードコール作り

3 公園の維持管理の報告

週2回行う巡視点検により、修繕箇所を早期発見・予防する予防保全型の維持管理を行いました。

【若草台第二公園分区園】

各所に施設の老朽化がみられるため、施設点検を徹底して行いました。

分区園内通路を平らに均し防草シートを敷き、高齢者でも歩きやすくしました。

大雨後水溜まりが出来、滑りやすかった園路にウッドチップを敷き、滑らないようにしました。

水はけの悪い区画(1～12)の土壌改良を行い、改善を図りました。

若草台第二公園分区園に隣接する若草台第二公園は愛護会が活動しており、愛護会と連携しながら花植え等を行い、公園の魅力向上や公園PR等、質の高い管理運営を行いました。

【大柵杉の森ふれあい公園】

公園の特徴でもある竹の丸ベンチは経年劣化で安全性も確保されない為、横浜市と協議の上撤去し、第三者被害の未然防止を実現しました。

園路に近い危険木のモミジの伐採は10万円以上の費用となる為、横浜市に依頼しました。

水はけが悪かった花壇の暗渠排水工事を行って土壌改良し、協働農園として収穫体験イベントを行うことが出来ました。また、足場の悪い園路にウッドチップを敷き、来園者から大変喜ばれました。

希少植物の保全・竹林整備・高所の枯れ枝撤去・季節にあった植栽管理を適切に行いました。

(事業報告書様式3)

1 有料施設利用回数・人数・稼働率(月別)

■若草台第二公園分区園 有料施設利用回数・稼働率

名称	全区画数	利用区画数	利用率
個人用区画 (30 m ²)	32	32	100%

■大槲杉の森ふれあい公園 有料施設利用回数・稼働率

名称	全区画数	利用区画数	利用率
個人用区画 (10 m ²)	23	23	100%
個人用区画 (15 m ²)	13	13	100%
団体用区画 (40 m ²)	2	2	100%
合 計	38	38	100%

2 利用料金収入実績

■若草台第二公園分区園 有料施設利用料金収入

名称	単価(円)/年	全区画数	利用区画数	合計(円)
個人用区画 (30 m ²)	18,000	32	29	522,000
	16,500		2	33,000
	13,500		1	13,500
合 計		32	32	568,500

■大槲杉の森ふれあい公園 有料施設利用料金収入

名称	単価(円)/年	全区画数	利用区画数	合計(円)
個人用区画 (10 m ²)	8,000	23	23	184,000
個人用区画 (15 m ²)	12,000	13	13	156,000
団体用区画 (40 m ²)	32,000	2	2	64,000
合 計		38	38	404,000

3 令和5年度 公園利用状況

月別	公園の利用人数	備考
非常駐公園のため未計測		

若草台第二公園分区分園・大槲杉の森ふれあい公園 令和5年度 事業報告書

(事業報告書様式4)

令和5年度 修繕実績

修繕月日	修繕箇所	金額(単位:円)	委託業者名または直営かの記載
■若草台第二公園分区分園			
6.13	分区分園内通路に防草シート敷設	0	直営
6.15	ウッドチップ敷設	0	直営
3.21	分区分園の土壌改良	0	直営
■大槲杉の森ふれあい公園			
5.18	協働農園の改良工事	0	直営
5.30	トイレ前の水栓修繕工事	40,000	(株)高田管設
6.1	ウッドチップ敷設	0	直営
8.3	竹の丸ベンチ撤去	0	直営
8.3	高所枯れ枝撤去	0	直営
合計		40,000 円	

(事業報告書様式5)

令和5年度 増減備品一覧

品名	形状・ その他	単価 (円)	購入		廃棄		増減理由
			数量	年月日	数量	年月日	
増減なし							

(事業報告書様式6)

苦情・要望対応報告

■若草台第二公園分区分園			
	月日	内容	対応結果
1	5.26	利用者より作業中に誤って鍬でホースを破損させてしまったと連絡あり。	当日にビニールテープで応急処置を行い、3日後にホースの補修を行った。
2	5.30	利用者より区画22の畑に特定外来生物のオオキンケイギクが植わっているので注意してほしいと連絡あり。	当日に区画22の利用者に特定外来生物の説明をして理解いただき、数日後に撤去していただいた。
3	6.5	利用者より共有農具の鍬を増やしてほしいと要望あり。	共有農具の鍬1本とスコップ1本を設置した。
4	6.13	利用者より分区分園内の通路にシートを敷いて歩きやすくしてほしいと要望あり。	通路の土を平らに均し、防草シートを敷いて歩きやすくした。
5	6.13	新規利用者より畑を耕運してほしいと要望あり。	耕運機で耕運作業を行った。
6	6.15	利用者より大雨の後など園路に水が溜まって滑りやすく危ないので水が溜まらないようにしてほしいと要望あり。	園路のゴムマット等を撤去し、透水シート等の下処理をしてからウッドチップを敷いて雨が降っても滑らないようにした。

若草台第二公園分区分園・大柵杉の森ふれあい公園 令和5年度 事業報告書

7	11.22	利用者より倉庫の扉の鍵がかからなくなり、扉が固くて開かなくなったと連絡あり。	当日すぐに確認し、業者に連絡したが対応してもらえず、北部公園緑地事務所へ連絡したがすぐに駆けつけてくださり、直していただいた。
8	3.2	利用者より1～12区画の水はけが悪く土壌が固いので何とかしてほしいと要望あり。抽選でその区画になってしまったら利用しない、とのお声をいただいた。	年度で利用者が入れ替わる時期に合わせ、1週間程の期間で1～12区画全面に土壌改良を行った。30cmの天地返しを行い、はまっ子ユーキと黒土を入れて改善を図った。

■大柵杉の森ふれあい公園			
	月日	内容	対応結果
1	5.26	来園者より多目的広場に犬のふんが放置されていることがあるので、注意看板を設置してほしいと要望あり。	多目的広場に注意看板を設置した。
2	5.30	利用者より野菜や果物の盗難が増えているので、利用者以外の人が畑に入らないように対策をしてほしいと要望あり。	カラーコーンに注意看板を付けて分区分園の入り口2箇所に設置した。
3	6.26	横浜市身体障害者団体連合会より、横浜市ガイドボランティア研修会のチラシを掲示してほしいと要望あり。	公園掲示板にチラシの掲示を行った。
4	6.28	近隣住民より三角地帯のツル及び雑草により害虫被害にあっているため、早急に伐採撤去してほしいと北部公園緑地事務所へメールで要望あり。	近隣住民には事前に作業日の連絡をし、機械草刈・ツル撤去・竹の伐採を行った。
5	6.29	利用者より雑草を放置している畑があり、迷惑なので注意をしてほしいと要望あり。	畑の利用者に連絡をし、除草していただいた。
6	8.3	かねてから利用者より、夜になると竹林広場の竹の丸ベンチで若者がたむろしているとお声をいただいていた。	竹の丸ベンチが経年劣化で安全性も確保されない為、横浜市と協議の上撤去し、第三者被害の未然防止を実現した。
7	8.24	利用者より蚊が多く刺されて困っているため、手洗い場の排水溝に葉を入れてほしいと要望あり。	蚊の発生を抑える為、手洗い場の桟清掃をこまめに行った。 ヤブ蚊バリアを利用者倉庫に設置した。
8	9.8	近隣住民より大雨で側溝に落ち葉と土砂が流れて溜まり、水が溢れていると連絡あり。	当日1時間以内に側溝の清掃を行った。
9	12.14	隣接宅住民より例年年末に行っている落葉清掃をお願いしたいと北部公園緑地事務所へ連絡あり。	翌日伺い、隣接宅の庭と公園外周の落葉清掃を行った。

(事業報告書様式6)

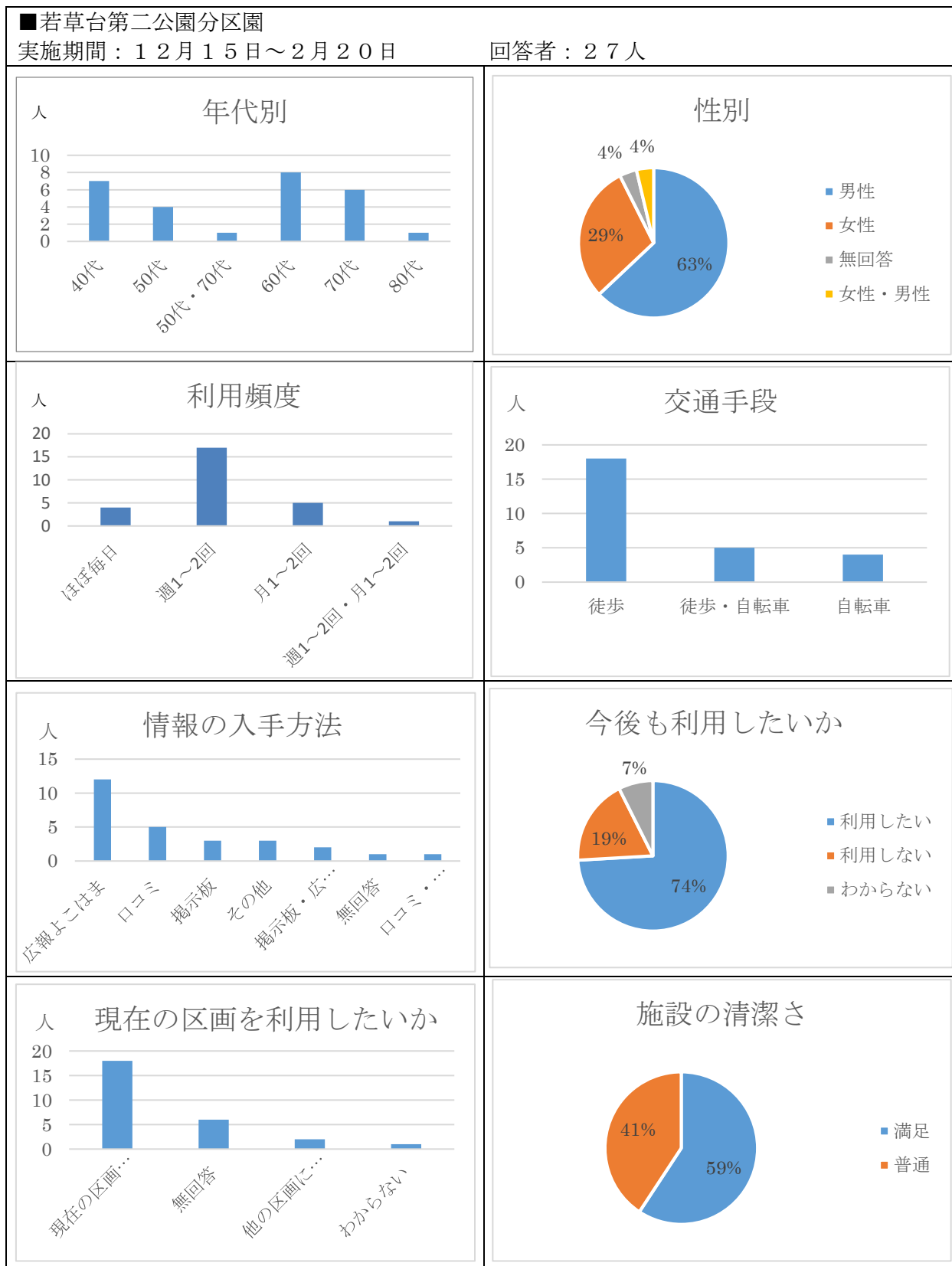
事件・事故・災害対応報告

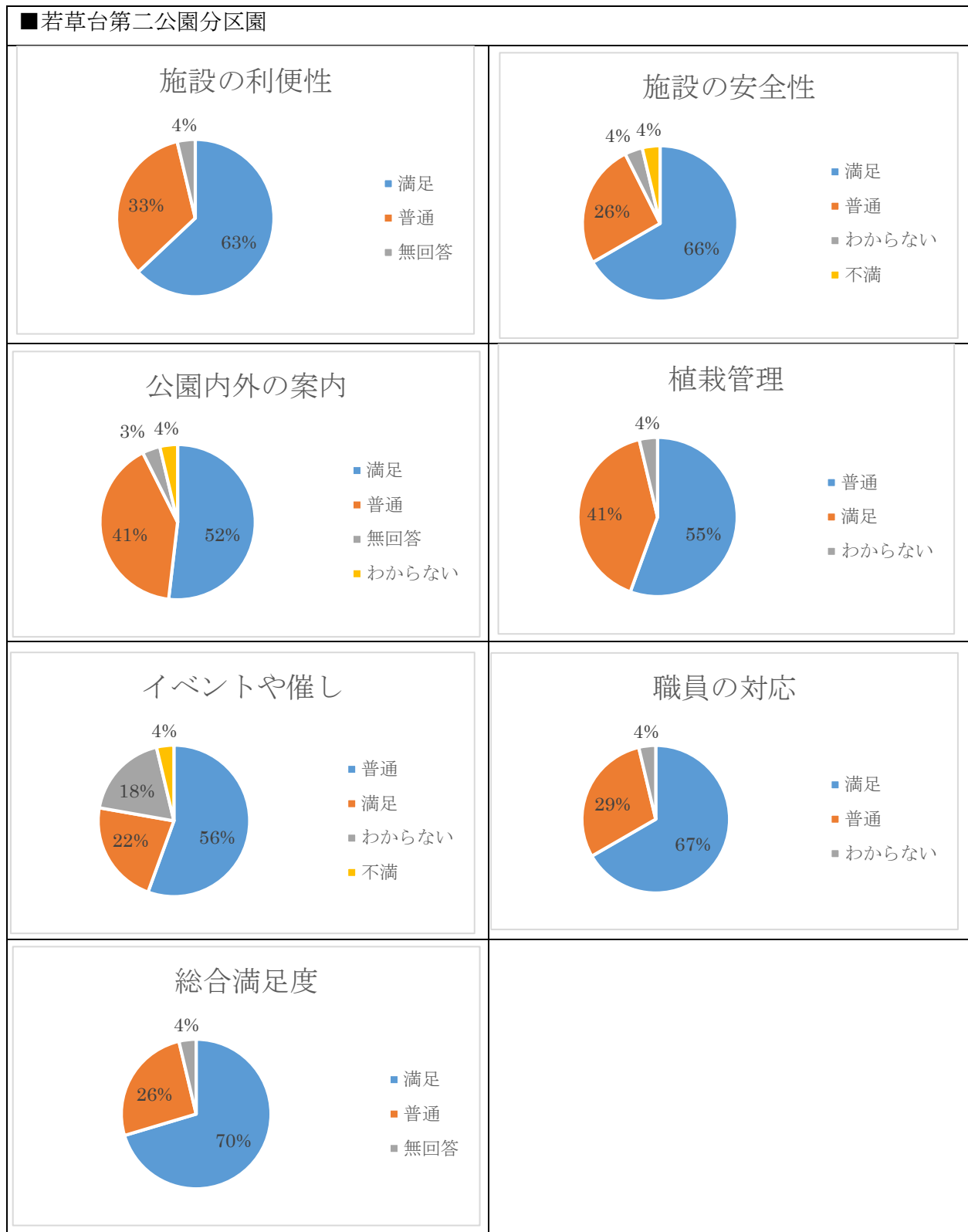
■大柵杉の森ふれあい公園			
	月日	内容及び被害	対応結果
1	8.8	8月8日、都筑警察より8月6日に大柵杉の森ふれあい公園26区画でトマト2個の窃盗があり、26区画利用者の確認をとりたいので連絡先を教えてくださいと連絡があった。	その後、26区画の利用者に連絡をしたところ、警察から犯人を捕まえたとの連絡あり。 警察に再度連絡をしたところ、きちんと処理をしたと報告をいただいた。

■若草台第二公園分区分園

今年度の報告はありません

利用者アンケート結果





■若草台第二公園分区園

【今後も分区園を利用したい理由】

- ・畑が家に近いから。
- ・自分が手がけた野菜を食べるのはとても幸せだと感じるから。
- ・野菜を近所の方に配ると喜んでもらえるので。
- ・整備がゆきとどいており作物もよく育ちます。
- ・健康のため。

【今後、分区園を利用しない理由】

- ・状況が変わって忙しくなり、今は時間がない。
- ・コロナ禍の間だけと考えていたため。
- ・2年毎の更新となるので、継続できる場所に変える事にした。
- ・身体が衰えてきた。
- ・健康上の理由で土との接触をさけるよう医師から指示されているため。

【現在の区画を利用したい理由】

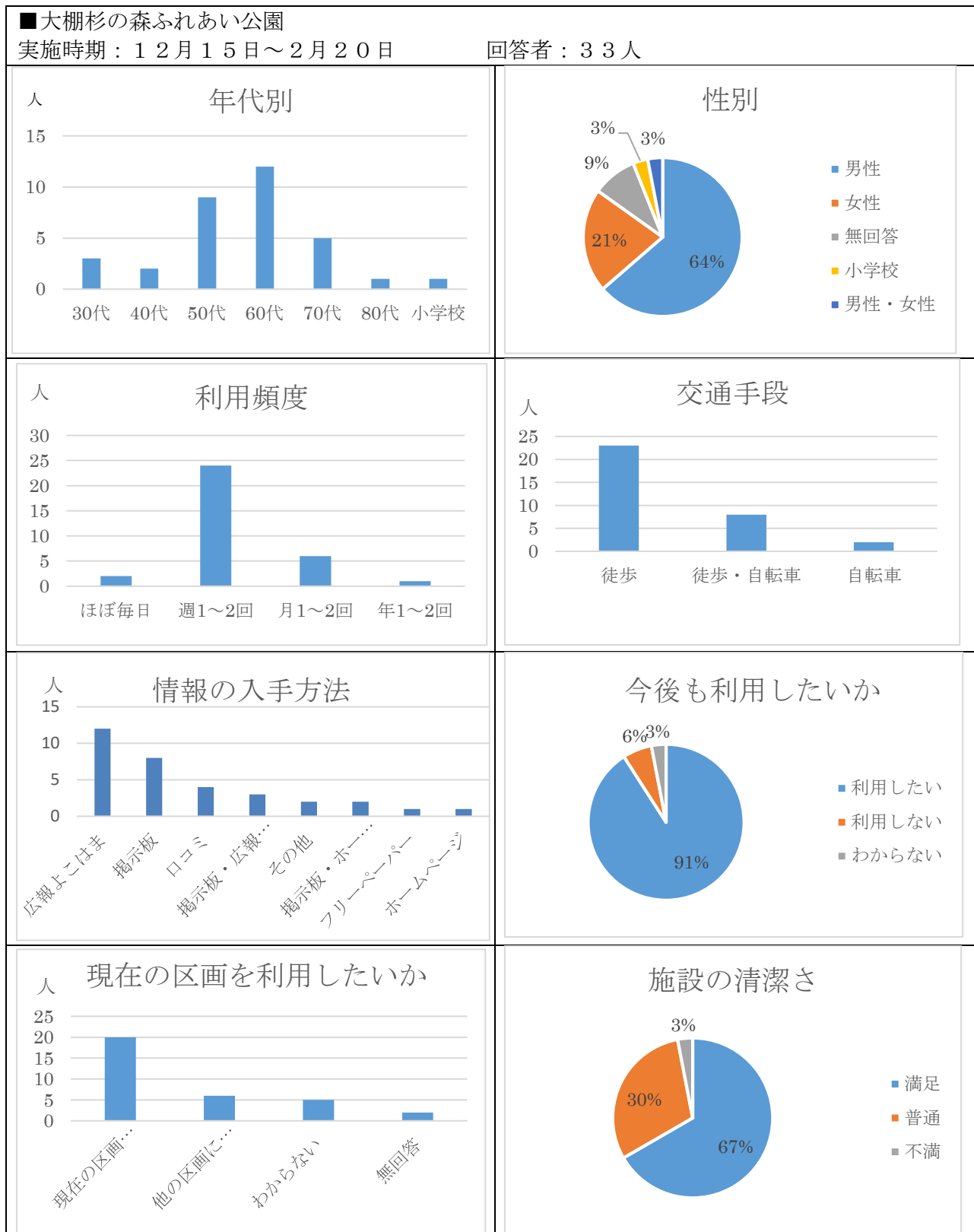
- ・土づくりをしっかりしているから。
- ・雑草防除などきれいにしているから。
- ・連作へのサイクルができています。
- ・水場に近く、使い慣れているから。

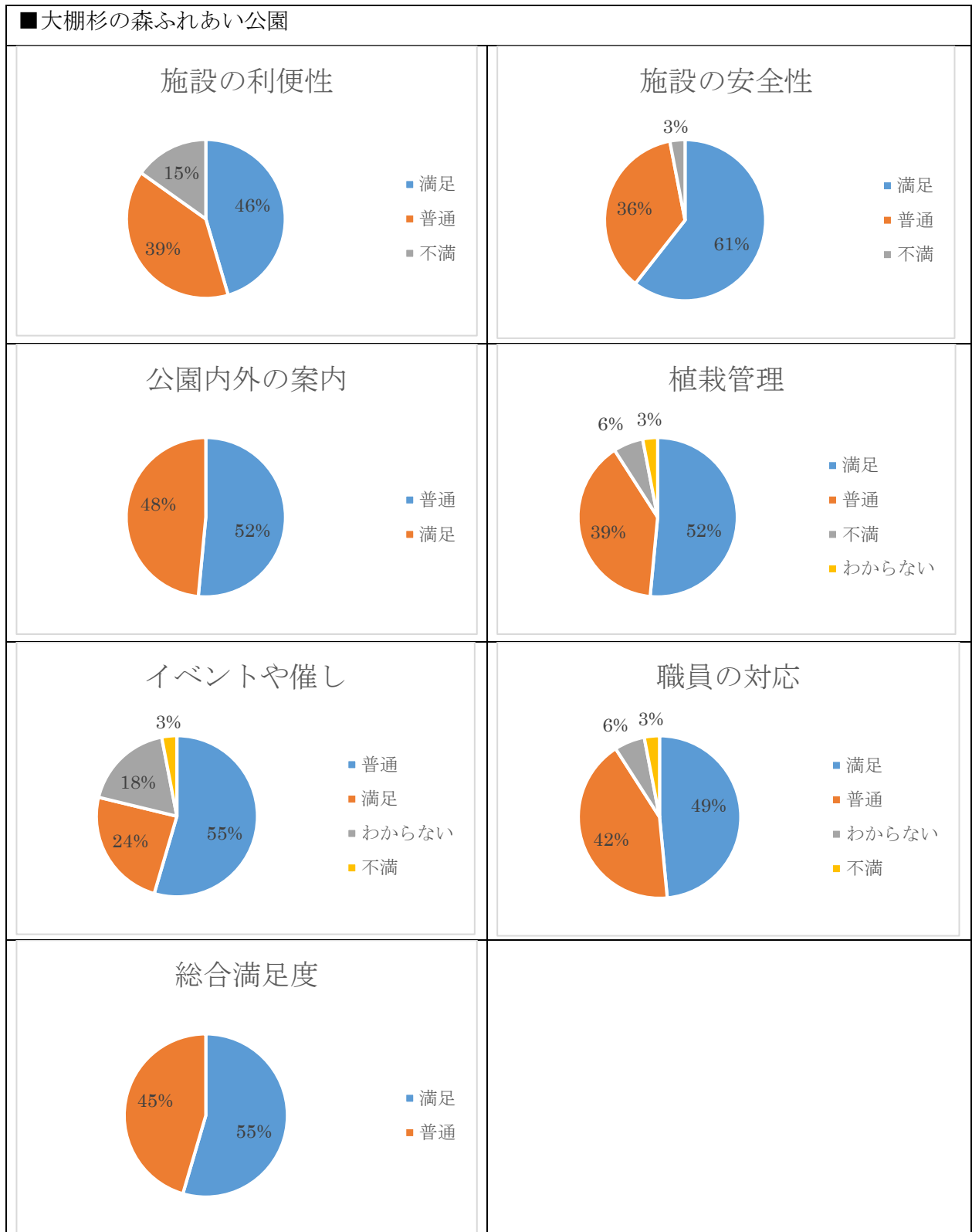
【他の区画に移動したい理由】

※他の区画に移動したい理由は、特に記されてはいなかった。

【自由意見】

- ・トイレを洋式にしてほしい。建物のドアは修理されたが再発防止を検討継続してほしい。
- ・秋から冬にかけてカラスやネズミによる作物被害があり、ネットをしても動物側が適応してしまう。
- ・三連のベンチ付近にゴミ捨てがあり、注意書等の貼紙が必要。
- ・道路に向かって右側の土壌状態が左側に比較し悪いため、来期に際して改善してほしい。
- ・途中で放棄したような畑の雑草対策を管理側で考えてほしい。
- ・雑草を刈り取る道具が共用であるといい。
- ・抽選が当たった場合、使用中の畑は継続して栽培できるとありがたい。土壌を悪化させないよう責任を持って取り組むことにつながると思う。
- ・利用申し込みの説明会やイベントなどは週末に開催してほしい。
- ・非常に良い管理がされていると思います。





■大槲杉の森ふれあい公園

【今後も分区園を利用したい理由】

- ・野菜作りが楽しく、好きだから。
- ・ほかの利用者様とのコミュニケーションが取れる為。
- ・行き帰りの適度な運動、収穫のささやかな喜び、土とのふれあいで、心がリラックスするため。
- ・値段と設備が良い。
- ・家から近い。
- ・畑作業を続けたいため。

【今後、分区園を利用しない・わからない理由】

- ・会社が休みの時しか行けないため。
- ・自宅から遠い。
- ・十分野菜作りを楽しめた。次の方におゆずりしたい

【現在の区画を利用したい理由】

- ・これまでにたい肥や肥料を入れて土の状況が分かっているから。
- ・連作障害を防げるから。
- ・作業がしやすく、慣れているため。

【他の区画へ移動したい理由】

- ・日当たりが悪いため。
- ・小区画へ変更。広い区画への移動を希望。

【自由意見】

- ・トイレが遠く利用しづらい。トイレは畑区画のある側に移設して欲しい。
- ・草のみ生えているように見える区画などは利用者に連絡し、抽選会で補欠になった人に半年でも利用できるような仲介をとってほしい。
- ・植栽の管理が不十分。階段まわりの剪定をこまめにしてほしい。
- ・上段の畑の水道栓を立柱にしてほしい。ホースから水漏れで使いにくい。
- ・ほとんど利用していない区分の利用者に対する指導をしていない。
- ・収穫が終わった作物や雑草は持ち帰っていますが、これらを捨てる穴やゴミ捨て場がほしい。
- ・タケノコ堀りは間を開けて2日間やってほしい。
- ・栽培している野菜の盗難注意の看板を見て治安の面が心配になりました。
- ・苗(春野菜・秋野菜)の販売イベントが有るとありがたいです。

(事業報告書様式8) 研修実施報告

	実施日	研修名	参加人数	内容及び効果
1	6.30	安全推進大会	4	安全に作業を行う為の研修
2	6.30	上級救命講習	3	応急手当に関する講習 (心肺蘇生、AED使用方法等)
3	10.10~12	安全衛生特別教育	1	チェーンソーでの伐木等の講習
4	11.6	社内防災訓練	4	災害時の安否確認等の訓練
5	12.5	人々を魅了する景観づくり講演会	1	景観づくり、植物の見せ方から運営、 スタッフ体制に関する研修
6	3.5	花卉園芸研修会	1	花卉園芸についての知識・技術等の研修
7	3.25	個人情報保護法入門研修	1	個人情報の取扱についての研修
8	3.27	社内個人情報保護研修	4	個人情報の取扱についての研修

若草台第二公園分区分園・大槲杉の森ふれあい公園 令和5年度 事業報告書

(事業報告書様式9)

無料事業実施報告一覧(自主事業含む)

事業名	事業内容・実施結果	参加人数	実施日
■ 2 公園共通			
土づくり講習会	講師による土づくりの講習会を開催	1名	8.25
栽培講習会	講師による野菜の栽培講習会を開催	1名	8.25
農薬の取扱い講習会	代用品での栽培アドバイスを実施	1名	8.25
現地でのお悩み相談会	栽培している野菜のお悩み相談会を開催	1名	8.25
道具の貸し出し	持ち運び困難な道具の貸し出しサービスを実施	—	随時
利用者用手引きの配布	利用規定や緊急連絡先を記載した手引きを配布	全区画	4月
連作障害防止	連作障害防止の観点から利用者に栽培情報の提供を実施	全区画	4月
図書サービス	利用者用倉庫内に野菜作りの書籍を常備	—	随時
土壌調査	希望者に向けて土壌の酸度測定を実施	7区画	6月
園芸資材の譲渡会	不要となった園芸資材の譲渡を募集	—	3月
畑づくりのコツ	畑作業で発見したコツの募集	—	3.12
お野菜レシピ	分区分園で収穫した野菜レシピの募集	—	3.12
収穫体験・タケノコ掘り	竹林管理の一環として行う大槲のタケノコ掘りは、若草台の利用者にもPRを実施	18名	4.17
落ち葉のリサイクル	園内で作った堆肥を希望者へ配布	4名	1.24
季節の種の無料配布	ダイコンの種の無料配布を実施	全区画	7.13
区画番号の作成	新しい区画番号札を設置	全区画	3.27
土づくりコンテスト	土づくり自慢を募集	—	3.12
こども食堂への提供	協働農園で育てた野菜をこども食堂への支援としてお届け	—	1.9
協働農園 グリーンカーテンの活用	来園者の熱中症対策と植物の生育観察・収穫体験のコーナーとしてゴーヤのグリーンカーテンを設置	—	6.16
野菜作り日記	SNSを活用して野菜の生育状況等を紹介	—	随時
AED・消火器の設置	緊急時に備え利用者倉庫に常備	—	随時
花植えによる景観向上	景観向上の為、花植え作業を実施(若草台)	—	4.11月
花植えによる景観向上	景観向上の為、花植え作業を実施(大槲)	—	4.7.11 1.2月
七夕イベント	大槲の竹を利用して七夕飾りを設置	25名	6.7月
竹のお正月工作	大槲の竹を利用してお正月用アレンジメント教室を開催	8名	12.26

若草台第二公園分区園・大槲杉の森ふれあい公園 令和5年度 事業報告書

■若草台第二公園分区園			
青葉地産地消レシピブックの紹介	青葉区が作成している野菜のレシピブックを配布	—	3. 19
朝どれ野菜の無料配布	多く採れた収穫野菜の配布交換を実施	—	随時
愛護会等の地域団体との連携	愛護会の方にご協力いただき園内の空きスペースに球根と花植えを実施	2名	11. 15
■大槲杉の森ふれあい公園			
さとやまづくり	さとやま景観の保全・希少植物の保全を実施	—	随時
花木園を活用した地域交流	夏みかんとはっさくの収穫体験を実施	6名	2. 1
花木園を活用した地域交流	ウメの整枝剪定講習会を実施	6名	2. 14
竹林を活用した地域交流	近隣住民向けにタケノコ掘り開催	18名	4. 17
巣箱の設置	来園者が野鳥を観察出来るように、巣箱を設置	—	12. 27
手書きの樹名板づくり	手作りの樹名板を設置	—	3. 13
自然観察会	野鳥などの生きもの観察会を実施	4名	3. 29
農業体験	協働農園で育てた野菜の収穫体験を実施	10名	12. 2
ゾウにタケノコプレゼント	竹林管理の一環として伐採したタケノコをズーラシアのゾウの飼育員にお届け	—	4. 17
工作教室	樹木剪定で発生した枝を使いバードコール作りを実施	4名	3. 29
環境教室	堆肥置場の見学を実施	4名	3. 29
自然クイズラリー	園内の植物で自然クイズラリーを行いHPで発信	—	3. 30

有料事業実施報告一覧（自主事業含む）

事業名	事業内容・実施結果	参加人数	実施日	自主事業決算額	
				自主事業費 (円)	自主事業収入 (円)
■ 2 公園共通					
園芸資材の現地販売	土壌改良剤であるはまっ子ユーキの現地販売を実施	—	4・8 月	61, 110	87, 300
竹のお正月工作	大槲杉の森ふれあい公園で伐採した竹を使って、お正月用のアレンジメント教室を実施	8名	12. 26	21, 349	8, 000
合計				82, 459円	95, 300円

（事業報告書様式10）

業務の第三者委託実績

業務	内容	委託会社	金額(円)	年回数	実施月
水道修繕	トイレ前の水栓の修繕工事	(株)高田管設	40, 000	1	5月

(事業報告書様式11)

収支報告書(指定管理事業のみ)

(単位:円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額(D)	差引 (C-D)	説明
収入の部						
指定管理料	8,246,600	0	8,246,600	8,246,600	0	
利用料金収入	2,197,500	0	2,197,500	972,500	1,225,000	
自主事業収入	84,000	0	84,000	95,300	▲11,300	
雑入	0	0	0	0	0	
その他雑入	0	0	0	0	0	
収入合計 (a)	10,528,100	0	10,528,100	9,314,400	1,213,700	

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額(D)	差引 (C-D)	説明
支出の部						
人件費	7,016,600	0	7,016,600	7,155,098	▲138,498	
給与・賃金	5,757,000	0	5,757,000	6,242,336	▲485,336	
社会保険料	829,600	0	829,600	725,418	104,182	
通勤手当	30,000	0	30,000	97,344	▲67,344	
福利厚生費	220,000	0	220,000	90,000	130,000	
勤労者福祉共済掛金	12,000	0	12,000	0	12,000	
退職給付引当金繰入額	168,000	0	168,000	0	168,000	
事務費	1,034,500	0	1,034,500	593,544	440,956	
旅費	184,000	0	184,000	99,917	84,083	
消耗品費	100,000	0	100,000	233,502	▲133,502	
会議賄い費	10,000	0	10,000	9,710	290	
印刷製本費	100,000	0	100,000	20,910	79,090	
通信運搬費	110,000	0	110,000	165,045	▲55,045	
使用料及び賃借料	0	0	0	0	0	
(横浜市への支払い分)	0	0	0	0	0	
(その他)	0	0	0	0	0	
備品購入費	200,000	0	200,000	0	200,000	
保険料	80,000	0	80,000	63,460	16,540	
振込手数料	20,000	0	20,000	0	20,000	
リース料	120,000	0	120,000	0	120,000	
手数料	0	0	0	0	0	
その他事務費	110,500	0	110,500	1,000	109,500	
自主事業費	300,000	0	300,000	190,833	109,167	
管理費	1,720,000	0	1,720,000	716,652	1,003,348	
光熱水費合計	420,000	0	420,000	379,222	40,778	
光熱水費(電気)	220,000	0	220,000	184,483	35,517	
光熱水費(ガス)	0	0	0	0	0	
光熱水費(水道)	200,000	0	200,000	194,739	5,261	
光熱水費(下水道)	0	0	0	0	0	
清掃費	0	0	0	0	0	
修繕費	100,000	0	100,000	40,000	60,000	工作物等
機械警備費	0	0	0	0	0	
公園及び公園施設設備保全費	1,200,000	0	1,200,000	297,430	902,570	
施設(建物)・設備保守	300,000	0	300,000	6,000	294,000	
園地管理費	700,000	0	700,000	291,430	408,570	
その他保全費	200,000	0	200,000	0	200,000	
公租公課	207,000	0	207,000	0	207,000	
公租公課(事業所税)	107,000	0	107,000	0	107,000	
公租公課(消費税)	100,000	0	100,000	0	100,000	
その他公租公課	0	0	0	0	0	
事務経費(本部分)	250,000	0	250,000	401,391	▲151,391	
雑費	0	0	0	0	0	
支出合計 (b)	10,528,100	0	10,528,100	9,057,518	1,470,582	
差引 (a-b)	0	0	0	256,882	▲256,882	

(参考) 指定管理事業外の収支

設置管理許可収入合計 (c)	76,000	0	76,000	40,887	35,113	自販機一台
設置管理許可支出合計 (d)	26,000	0	26,000	5,236	20,764	電気代等含む
差引 (c-d)	50,000	0	50,000	35,651	14,349	

今年度の収支報告

定期巡視でこまめな点検を実施し、不具合の早期発見・予防を図ったことで大規模修繕に至らなかったため、修繕費の削減が出来た。コスト意識を持ち、経費削減に努めた。

運営目標・実績報告【自己評価 ◎:特筆すべき取組がある ○:達成している △:改善を要する】

項 目	計画時の取組み内容及び具体的な 数値目標	実績	自己 評価	改善点等 今後の取組
業務運営 1 (事業計画書様式2:運営業務の実施計画・取組)	①農業を通してふれあえる公園づくり ②利用者ニーズを踏まえたサービスの提供 アンケートや巡視時の聞き取り調査を通じて反映(年2回程度) ③地域連携とコミュニティ形成を促進 協働農園や果樹園を活用した自主事業の実施 ④安全・安心で快適に利用できる環境づくり ⑤市民への還元と社会的な責任を果たす ⑥谷戸景観・里山景観・緑の保全 竹林やキンラン・エビネランの自生エリアの保全 ＜今後の取組・目標＞ 野菜作りのできる公園・まちの人・里山環境の保全のつながりを目指した公園管理に取り組む	・公園利用者への声掛けや掲示板の活用により、分区園利用率100%に繋げることが出来た。 ・またイベントへの声掛けなども積極的に行い、令和5年度のイベント参加人数は大槲50名、若草台6名となり、近隣住民や分区園利用者に大変に喜ばれた。 ・大槲の自販機の売上で野菜苗や花苗等を購入することが出来た。 ・竹林や自生する希少植物(キンラン・ギンラン・エビネ・ヤマユリ)の保全を適切に行った。	◎	令和6年度は協働農園の収穫体験イベントも増やし、果樹園を利用したイベントも引き続き実施してまいります。 里山景観や竹林管理、希少植物の保全も適正に行ってまいります。
業務運営 2 (事業計画書様式2:管理運営体制、人員の配置と研修計画)	【管理運営体制】 ①現地管理責任者・技術職員による定期巡視・清掃 (週2回) ②荒天時や緊急時など必要に応じて臨時巡視 ③夏季や繁忙時の増員 (2人程度) 【研修】 ①安全管理、接遇など様々な業務を遂行できるよう定期的研修(年3回程度) ②マルチスタッフ化を図る スタッフ連携や情報共有、研修等を通じてマルチスタッフ化を目指します ③職員の技術・技能の向上 日常の管理業務や作業を通じて技術の伝承を目指します	・公園利用者が安全、安心に利用できるよう、週2回の定期巡視を行うことが出来た。 ・必要に応じて臨時巡視や繁忙時の増員を実施した。 ・安全大会、上級救命講習、社内防災訓練、公園作り研修、安全衛生特別講習(チェーンソー)、花卉園芸研修、個人情報保護研修を実施した。	○	引き続き適正な人員配置を行い、定期的な研修を行いながら、安全な管理を行ってまいります。

業務運営 3 (事業計画書様式 3 : 利用者サービスの向上・利用促進策)	利用者の声を把握し公平・公正に管理運営に反映し、誰もが安心して安全・快適に利用できる環境とプログラムを提供します。また、公園の魅力向上と利用者サービスの向上を図ります。 ①アンケートによる満足度 90%以上を目指す。 ②利用者からの要望の実施 ③利用者募集 PR を SNS や掲示板・広報誌等を活用しておこないます 屋外での作業も安全に安心して実施できるよう、熱中症対策やアルコール消毒を行う。	・イベントアンケートでは満足度 90%以上を達成出来た。利用者アンケートでは満足度は 66%だった。 ・若草台では利用者から要望があり以前からの課題であった 1~12 区画の土壌改良を行うことが出来た。 ・利用者募集の PR を X,HP、掲示板、広報よこはまで行った。	○	引き続きアンケート調査の実施を行い、利用者からの要望があれば対応を検討していきます。また季節の変化に応じた利用者サービスの向上に取り組んでまいります。
業務運営 4 (事業計画書様式 3 : 広報・プロモーションの取組)	①広く一般に向けた施設専用のホームページの運用 ②高齢者や近隣利用者に向けた直接的な訴求効果が図れる情報媒体(広報誌など)を活用 ③若年者へ向けた、SNS(HP やツイッター)の活用 (ツイッター月 2 回程度) 具体的な管理状況やイベント等の情報を発信し、多くの方に公園を知っていただけるよう取り組む	・掲示板や施設専用のホームページを活用した。 ・公園パンフレットを掲示板の横に設置し、公園の PR に努めた。 ・イベント時は公園や分区園の説明等も行い、多くの参加者に PR した。 ・SNS (HP・X) を利用し、季節の公園の様子やイベントの情報の周知を行った。	○	引き続き分区園の PR を行い、X や HP での情報発信の回数を増やしてまいります。
業務運営 5 (事業計画書様式 3 : 市民協働、市民主体の活動の支援、地域人材育成)	①地域活動の場の提供、学習の機会(活性化) 協働農園や公園内施設を活用した、農体験の場の提供(・花木園を活用した地域交流 ・竹林を活用した地域交流) ②市民主体の活動の支援 花壇づくり等の企画・サポート ③防災活動の支援 東日本大震災の教訓を啓発し、防災訓練を支援 〈今後の取組・目標〉 本公園は農体験を通じて利用者同士のコミュニケーションが生まれ、作物を育てるだけの場ではなく地域住民にとっての交流の場となる公園を目指します。	・竹林管理の一環として行ったタケノコ掘り体験のイベントでは、とても良い地域交流の場となった。 ・協働農園では、ダイコン・チンゲンサイ・セロリ・サニーレタスの収穫体験を行うことが出来た。農体験を通じた交流の場となり、近隣住民や来園者から大変喜ばれた。 ・公園利用者や公園愛護会と花壇作りを行った。 ・社内防災訓練を行った。	○	引き続き近隣住民も参加していたイベントを実施し、皆様の交流の場となる公園を目指してまいります。

業務運営 6 (事業計画書様式 3 : 地域課題を踏まえた事業提案・地域活性化への貢献)	①里山風景と自然環境の保全(さとやまづくり) ②地域住民の高齢化対策 ③地域での健康づくり、介護予防、健康寿命の延伸 ④自然体験や伝統文化を学習する機会の提供(巣箱の設置・自然観察会) ⑤SDGs や地球温暖化等の環境学習の場(環境教室・自然クイズラリー) <今後の取組・目標> 公園管理や里山景観の保全を通じて、地域との係わりを大切に地域課題や活性化につながる機会を提供します。	・竹林管理(伐竹)・樹林地管理時にキンラン・ギンラン・エビネ・ヤマユリの保全を適切に実施出来た。 ・高齢者でも安全に歩けるように園路の管理、整備を行った。 ・来園者が身近に野鳥を観察出来るように、巣箱を設置した。 ・タケノコ掘りやバードコール作りで環境についても学んでもらうことが出来た。	◎ 引き続き地域の方々と収穫体験が行えるように協働農園の野菜作りの準備を進めていき、身近な自然を楽しめるような公園作りを目指してまいります。また大榎では希少植物の保全を適切に行ってまいります。
業務運営 7 (事業計画書様式 3 : 本市の重要施策を踏まえた取組・環境への配慮)	【横浜市施策への協力】 ・横浜みどりアップ計画・ガーデンシティ横浜の推進・国際園芸博覧会の開催に向けて・横浜市 SDGs 認証制度・ヨコハマ b プラン・横浜市水と緑の基本計画・横浜市中心部振興基本条例・ヨコハマ 3R 夢プラン・横浜市地球温暖化対策実行計画・横浜市防災計画 当団体は、基本構想を踏まえ公園の設置目的の達成及び横浜市の運営方針や市政の実現に対して積極的に協力・対応し管理を行うとともに、国際園芸博覧会の開催に向けて協力します。	・国際園芸博覧会のポスター掲示や花の管理には力を入れ、公園の緑花などみどりアップ計画の推進に努めた。 ・園内で発生した草や落ち葉を利用して堆肥作りをし、ゴミの量を抑制することで、環境に配慮した管理運営を行うことが出来た。	○ 引き続き市の施策実現に向けて積極的に協力し、花と緑あふれる魅力ある公園を目指してまいります。
業務運営 8 (事業計画書様式 4 : 公園の魅力高める施設保全・管理)	公園施設は誰もが安心・安全で快適に利用できるよう、質の高い維持管理と安全確保を最優先し、利用者にとって「きれいで使いやすい・魅力ある公園」を目指す ①週 2 回の巡視と定期清掃 ②園内作業や巡視時の利用者への声掛け ③日ごろから近隣住民との顔の見える関係づくり <今後の取組・目標> 公園の魅力高める施設保全や管理を行ってまいります。	・週 2 回の巡視と定期清掃を実施出来た。 ・巡視時の利用者への声かけは積極的に実施出来た。 ・利用者だけではなく近隣住民とも挨拶を交わし、顔の見える関係づくりが実施出来た。 ・季節や植物にあった植栽管理を実施し、スイセンの花等も綺麗に咲き、来園者から喜ばれた。 ・果樹園では、初めて夏みかんの収穫体験やウメの整枝剪定講習会を実施し、楽しんでいただけたようだった。	○ 引き続き適切な施設保全、植栽管理を実施し、魅力ある公園を目指してまいります。

業務運営 9 (事業計画書様式 4 : 施設 (建物等)、設備の維持管理、修繕計画)	①週2回行う巡視点検時の確認 ②修繕箇所を早期発見(週 2 回の巡視) ③予防保全型の維持管理 小さな破損や不具合は適宜補修します 〈今後の取組・目標〉 公園施設は誰もが安全・安心で快適に利用できるよう、質の高い維持管理と安全確保を最優先し、利用者にとって「きれいで使いやすい・魅力ある公園」を目指した管理運営を行う。施設の長寿命化を図るため、定期巡視の際に施設の点検を行い、不具合の早期発見に努める。	・公園施設(遊具等)は定期巡視の際にも点検を行い、安全確保を図った。 ・綺麗で居心地の良い公園と言ってもらえるように、トイレ清掃や園路広場の清掃には力を入れた。 ・大榎では定期巡視の際にトイレの前の水栓の水漏れを発見し、修繕工事を行った。	○	引き続き点検と清掃には気を配り、適切な管理を行ってまいります。
業務運営 10 (事業計画書様式 4 : 樹木、植栽等の管理)	〈今後の取組・目標〉 樹木は個体管理を行い、専門職員により適切かつ効率的な育成管理を行う。また、必要に応じて樹木医の診断を実施する。花木の剪定は花や実の時期に留意した剪定を行う。	・中低木、花木類等、適期に剪定・刈込を行い、適切な育成管理が出来た。 ・太い危険木伐採を市に依頼し、実施していただいた。	○	引き続き植栽等の適切な管理を行い、利用者の事故を未然に防止するよう努めてまいります。
業務運営 11 (事業計画書様式 4 : 巡視・清掃)	①週2回の定期巡視点検 修繕箇所を早期発見・予防する予防保全型の維持管理 ②日常点検:目視や触診にて、不具合を軽微なうちに発見し迅速に対応 ③施設点検:年 4 回実施 ④詳細点検:年 1 回実施 ※有資格者による点検を実施 〈今後の取組・目標〉 これまでの経験と技術を活かし利用者が安全で安心して過ごせるような維持管理に努める。	・所定の巡視、点検を計画通り行い、安全、安心、快適に使用出来るよう実施した。	○	引き続き巡視、点検を計画通りに行い、必要に応じて巡視回数や人員を増やし、利用者が安全、安心に過ごせるような維持管理に努めてまいります。
収支 (事業計画書様式 7 : 収入確保、経費節減策)	分区分園利用率 100%を目指し、広報と利用促進に努める 〈今後の取組・目標〉 不具合の早期発見・予防を図る事で大規模修繕に至らないよう努める。コスト意識を持ち経費削減に努める。	・大榎では分区分園利用率 100%を達成出来た。 ・若草台では分区分園利用率 100%を達成出来た。 ・定期巡視で不具合の早期発見が出来るようこまめな点検を実施した。	○	引き続き分区分園利用者の確保には声掛けや掲示板、HP 等を活用した発信を行ってまいります。 定期巡視でこまめな点検を行い、不具合の早期発見に努めてまいります。